

ホスピス財団設立 15 周年記念

Ellershaw 教授 講演会 & シンポジウム



10月7日(金) 札幌コンベンションセンターにて、リバプール大学緩和医療学教授 John Ellershaw 氏による講演「死にゆく患者のケアをいかに改善させるか」がなされました。講演の中で氏が開発された「Liverpool Care Pathway」の有用性について語られ日本で活用されることを期待されました。続くシンポジウムでは、シンポジストの茅根義和氏、杉田智子氏より、現場での LCP 活用例が紹介されまし

た。また、田村里子氏からは、ソーシャルワーカーの立場から、終末期患者のケアに関する発表がなされました。今回の講演会は、第 40 回日本死の臨床研究会年次大会とのタイアップで開催されたものであり、Ellershaw 教授は、同大会でも 2 回の講演をされました。

(参加者；82 名)



「Liverpool Care Pathway」

Dr. John Ellershaw により 2003 年に提唱された看取りのクリティカル・パスです。チェック・リスト形式で、患者を看取るまで、そして看取り後の治療とケアの手引きとなり、経過記録を支援することを目的として作られています。

詳しくは、LCP ホームページを参照ください
<http://www.lcp.umin.jp/>



Hutchinson 教授による 『新たな全人的ケア』 出版記念講演会

『新たな全人的ケア 医療と教育のパラダイムシフト』の出版を記念してカナダ マギル大学の Whole Person Care プログラム責任者である Tom A Hutchinson 教授を招き、Whole Person Care への理解を深めるため

の講演会が、11月26日 大阪、27日東京の2会場で開催されました。講義は2部構成で行われ、第1部では Whole Person Care の本質が、参加者との双方向の対話も交えながら講義されました。第2部では、実際にマギル大学の医学生に実践されている教育システムの紹介も含めて、より実践的な講義がなされました。また、フ



ロアーからの質疑応答も活発に行われ、Whole Person Care への関心の高さが伺えました。

(参加者：大阪 49 名、東京 69 名)

青海社より全国で発売中。2,000 円+税



ホスピス・緩和ケアフォーラム 2016 in 各務原



今回で 29 回目となる、ホスピス・緩和ケアフォーラムが、10月1日(土) 岐阜県各務原市の各務原市文化ホールで開催されました。

特別講演では、東海中央病院名誉院長の渡邊 正先生より「地域でつなぐ緩和ケア」と題して、また、パネルディスカッションでは「地域でがん患者を支えるために」と題して4名のパネリストから発表があり、地域でがん患者とどのように取り組むかなど、示唆に富む内容であり、2025年問題を見据えた時機にかなったフォーラムとなりました。

◎ 参加者 151 名



フォーラムに参加して

特定非営利活動法人がんサポートセンター 副理事長 横山 光恒

平成28年10月1日に各務原市文化ホールで開催された、「ホスピス・緩和ケアフォーラム 2016」に参加させていただきました。

私も 10 年前になりますがん告知を受け、命の終い方を考えた「一人の患者」であり、また地域で心に寄り添う活動をしている患者団体の立場として拝聴させて頂きました。

ホスピス・緩和ケアの歩みや今後の役割について学ぶだけでなく、がん診療連携拠

点病院・中核病院・クリニック・看護ステーションの先生方のお話から地域における専門特化したその役割と病診連携にとどまらない「人」の連携が生み出す相乗効果を学ぶことができました。

私たちが相談を受ける中で「生きる意味が分からない」「この先、どうなっていくのか不安」といった悩みを持たれている方に多く出会います。統計や分析からは見えない百人百様の心と体の苦しみに向き合いながら、患者としてではなく「一人の人」として支えて頂ける時代であることを広く知ってもらうことが大切だと感じました。

ホスピス・緩和ケアは、死に向き合い「残された時間を自分らしく生きるため」よりも、「安心して生き切るための伴走者」と考えるのが正しいのかもしれませんが。

私は一人の患者として、登壇された先生方だけではなく会場に参加された多くの方々の想いにも触れることができ、とても心強く感じることができました。

そしていつか、私もその時がきたら、みなさんに安心して甘えてみようと思います。



こんにちは
ホスピス

佐賀県医療センター好生館

緩和ケア科 部長 小杉 寿文

好生館とは江戸時代末期の佐賀鍋島藩の医学校の名称です。明治 29 年には佐賀県立病院好生館となり、平成 25 年 5 月に新築移転とともに名称を変更しましたが創立 180 年を超えています。当院の緩和ケア病棟は平成



10 年 2 月に開設されました。県立病院にホスピスを誘致する県民運動によって設立され、その運動を支えていただいた方々は現在もホスピスボランティアや佐賀のホスピスを進める会として、子供たちに生と死の授業を行

っておられます。現在の緩和ケア病棟は、15 床の院内病棟型です。決して広くはありませんが、明るくオープンなホスピスを

目指しています。音楽会や喫茶、陶芸教室、絵手紙教室、園芸、アニマルセラピー、アロママッサージ、化粧、移動図書、熱帯魚水槽管理など多くのボランティアさんに支えられています。医学生や看護学生、研修医の教育はもとより、最近は介護施設職員に対して看取りの研修事業を始めました。緩和ケア病棟での実習を通して、看取り期のケアやコミュニケーション技術を研修していただいています。閉鎖的なホスピスではなく、教育の場として地域に開かれたホスピスを目指し、ホスピスが地域でどのような役割を果たすことができるのかを試行錯誤しています。そうすることでケアの質を保つことに繋がるのではないかと考えています。患者さんが自らの手でご自身の骨壺を作成されました。死を見つめながら生きる場所でありたいと思います。



自らの骨壺を作成中

第8回 グリーフ&ビリーブメントカンファレンス

死別による悲嘆の研究から臨床実践までを含めた学術交流の場として、2017年2月4日(土)に龍谷大学 大阪梅田キャンパスにてグリーフ&ビリーブメント・カンファレンスが開催され、3名の講師の方々から、実例を交えての示唆に富む講演がなされ、有意義な一日となりました。

◎ 参加者 80名



第8回 グリーフ & ビリーブメントカンファレンスに参加して



埼玉医科大学病院 研修医 石川 洋平

今回、初めてグリーフ & ビリーブメントカンファレンスに参加させていただきました。

当日は、精神腫瘍科の大西先生、池田小事件ご遺族の本郷先生、薬害 HIV 事件に携わった臨床心理士の鈴木先生がご講演下さいました。

私が講演後に感じたことは“同じ境遇の方の存在の大切さ”でした。大西先生は再発がん患者さんの集団精神療法を行っており、その中で、患者さん同士が互いに干渉しあうことで、人としての成長に繋がっ

ていると仰っておりました。本郷先生は被害者遺族でありながら、精神対話士として、遺族に対するサポートやケアを実践し、また、講演を通して一般社会にグリーフケアを浸透させようとお力なされておりました。鈴木先生のご講演では、薬害 HIV 患者の遺族の方々がサポート“される側”からサポート“する側”に変わり、お互いの心のケアを行なっていることを教えて頂きました。

三者関わり方に違いはあるものの、それぞれのピアサポートを実践されていました。心を痛めている方々は、自分のことを本

当に理解してくれる人を望んでいるのだと思います。同じ境遇の方がいるというだけで孤独感がなくなり、前に進むきっかけになるのだと教えて頂きました。

私ができることは、ご講演なさった先生方のようにピアサポートの橋渡しをするこことや、心を痛めている方のよき理解者になることだと思いました。よき理解者になるためには直接その方に接し、何を思っているのかを知ることも大事ですが、本やインターネット、講演会を通し、情報を得て経験とすることも大事だと思ひました。

今回のカンファレンスではたくさんの方のことを学び、考えさせられました。この経験を明日からの医療に役立てていきたいと思ひます。

お知らせコーナー

ホスピス・緩和ケア白書 2017 発売中

特集テーマ 小児緩和ケアの現状と課題

発行所 青海社 2,200円(税別)

お求めは書店で

(ホスピス財団賛助会員には無料で送付しております)



Whole Person Care ワークショップ

従来のワークショップをコース1として継続し、新たにコース1を終了された方を対象としたコース2を開設いたします。

- 第10回 コース1 2017年8月5日(土)
- 第1回 コース2 2017年8月6日(日)
- ともに9:30~19:30
- 会場 コース1、2とも

千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)

詳細は、近日中にホームページに掲載いたします。

ホスピス・緩和ケアボランティア研修会

●2017年7月19日(水) 岩手県一関市

2017年7月20日(木) 宮城県仙台市

詳細は、後日ホームページに掲載いたします。

ホスピス財団・第1回国際セミナー

●2017年11月25日(土)東京、11月26日(日)大阪

●講師 Robert Gramling 先生

(米国バーモント大学 メディカルセンター家庭医学科 緩和医療学部 准教授)

●テーマ “Whole Person Care における コミュニケーション”(逐次通訳付)

詳細は、近日中にホームページに掲載いたします。

メールマガジン “今月のお便り” 配信中

毎月、タイムリーな話題や財団事業の案内等をお知らせしています。是非、“今月のお便り”をお読みください。ホームページより簡単に申込みが出来ます。また、バックナンバーも閲覧可能です。



ホスピス財団
2017年度 事業計画書 (概略)
(2017年4月～2018年3月)

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業 (公募)
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業 (第4次調査・2年目)
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2018』
(特集テーマの概説+データブック) 作成・刊行事業
4. 非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査 (4年目)
5. ホスピス・緩和ケアに関する意識調査
6. 一般病棟や療養型病棟において緩和ケアの提供を進めるための手法の開発
7. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
8. Whole Person Care ワークショップ開催事業
9. グリーフケア研修セミナー開催事業
10. 高齢者介護施設等の看取り教育研修 (2年目)
11. ELNEC-PPC 指導者養成プログラム開催事業
12. 「緩和ケアにおけるソーシャルワークの手引き」の作成
13. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
14. 一般広報活動事業
15. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
16. 第1回国際セミナー開催事業
17. 第2回国際 Whole Person Care 学会への参加
18. APHN 関連事業
19. 日本・韓国・台湾 第2期共同研究事業 (3年目)

寄付者一覧 (2016年9月～2017年2月 順不同、敬称略)

- (個人) 田中 襄吉 金子 春美
(団体) 阪神聖書研究会
遺愛女子中学・高等学校

新規賛助会員 (2016年9月～2017年2月 順不同、敬称略)

- (個人) 片山 和久 湯又 満恵
(団体) 大分県済生会日田病院
一般財団法人 ライフ・プランニング・センター

ホスピス財団
2017年度収支予算書 (概要)

2017年4月1日から2018年3月31日まで (単位:千円)

科 目	2017年度予算
【経常収益】	
①基本財産運用益	3,978
②受取寄付金	29,500
(内訳) 賛助会費収入	24,000
一般寄付金収入	500
使途指定寄付金	5,000
③雑収益	
経常収益計 (A)	34,353
【経常費用】	
①事業運営費	39,360
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	14,135
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	11,527
ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業	6,415
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	7,293
②一般管理費	6,160
経常費用計 (B)	45,520
当期経常増減額 (A - B)	▲11,167

新刊・近刊紹介

ホスピス
わが人生道場

下稲葉 康之著

いのちのことば社
2017年2月刊
1200円+税



本書は、栄光病院 (福岡県) で長年に亘りホスピス医として、また牧師として多くの末期患者に接し、看取りを行ってこられた著者の、自らの歩みと、数々の心に響くエピソードや経営理念が記されている。

末期がん患者は“死”と真正面から対峙しなければならないという厳しい現実にあるが、同時に、ホスピス医もまた、その末期がん患者と対峙しなければならないという“人生道場”に立たされている存在である。この人生道場は、生と死とのせめぎ合いに苦しむ患者から人生の意味を問われるという真剣勝負の場でもある。そして著者は、この重い使命を背負う最中においても、苦しむ患者に対して平安と希望を与え続けることができるという信仰の力を証している。ホスピスに関わる人に限らず、多くの方に勧められるホスピスの真髄を知ることのできる好著である。

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは **06-6375-7255** です。

編集後記

今年も桜の季節がやってきました。春号として、32号をお届けいたします。

昨年は、設立15周年ということもあり、海外から2名の著名な先生を講師としてお迎えし、札幌、東京、大阪で講演会を開催いたしました。また、Whole Person Careの日本語訳『新たな全人的ケア』も刊行した多彩な年でありました。本年は、上述の19事業を立案いたしました。これらの事業が皆様のお役に立ち、喜んでいただけるものとなることを願っております。引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。